

<新しい出会い>

桑原紀子

9月の秋晴れの日、あざやかなオレンジ色の蝶が視界に飛び込んできました。平和台を歩いていた時です。敏捷な飛び方ですが、運良く近くの草にとまりました。

オレンジ色の翅全体に豹のような黒い斑点のある、すっきりした中型の大きさ。

ヒョウモンチョウという種類の、高原に多い蝶がいるのですが、その仲間のようです。

一瞬の姿を目に焼き付けて、帰宅するとすぐ図鑑でさがしました。

後翅の縁取りに特徴があり、ツマグロヒョウモンの雄と判明しました。

ツマグロヒョウモン！

数年前から関東にも姿を見せ始めた、話題の蝶のひとつです。

雌雄の翅の模様はまるで別種のように異なります。ツマグロの名は、雌の前翅の先が黒い事によるようです。

つい数日前みどり野住宅地を自転車で走っていて、見慣れぬ蝶を花壇で見つけ、それがツマグロヒョウモンの雌との初対面でした。

幼虫の食草はスマレですが、園芸種のピオラやパンジーも食べるので、都市の住宅地で増えていると思われます。

7月の朝日新聞に「南国の使者ご近所に」という見出しで、南国の蝶が温暖化で北上しているという記事が出ました。



ツマグロヒョウモン



ツマグロヒョウモン

数種類の蝶の中にツマグロヒョウモンもいて、南西諸島から西日本まで生息していたのが、今や関東一帯まで勢力を伸ばしているとありました。

ツマグロヒョウモンが多摩地区に増えているという話は、以前にも聞いていました。

でもこうして出会って見ると、環境の変化をあらためて実感します。

幼虫で越冬するのですが、暖地性のこの蝶が凍えずに関東の冬を越せるほど、気温が上昇しているということなのです。

数年前までは鶴川では

珍しかったモンキアゲハという南国の大型のアゲハも、今では普通に見られます。

蝶だけでなく、蜘蛛も、哺乳類も、蝉も新しい出会いが増えています。

その影で、ひっそりと姿を消してしまった懐かしい沢山の生き物たちのことも心にとどめておきたいと思うのです。

新しい出会いを楽しみながら、多摩丘陵の自然の変化を見つめていたいと思います。